

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第 2 回 近江八幡市子ども読書活動推進委員 会議		
開催日時	令和 7 年 2 月 2 0 日（木） 1 5 : 3 0 ~ 1 6 : 5 0		
開催場所	近江八幡市南別館 2 階 教育委員会会議室		
出席者 会 長◎ 副会長○	<子ども読書活動推進委員> ◎市島委員 藤田委員 益田委員 伊丹委員 三井委員 川上委員 西村委員 世古委員 <事務局> （挨 拶） 清水生涯学習次長 （事務局） 学校教育課 木村 課長補佐 小林 指導主事 教育研究所 高木 研究員 生涯学習課 古本 指導主事 富永		
次回開催予定日	令和 7 年 6 月		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 富永 電話番号：0 7 4 8 - 3 6 - 5 5 3 3 Fax番号：0 7 4 8 - 3 6 - 5 5 6 5 メールアドレス： 045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・ 要 約	要約した理由	発言の内容や第 3 次子ども読書活動推進計画の指標の進捗状況の記録を見やすくするため

事務局	1 開会
生涯学習次長	次長挨拶 ・謝辞 第2回子供読書活動推進委員会の開催に際し、日頃のご協力に感謝の意を表し、特に最近の活動への尽力にお礼を述べた。 ・確認 今年度は、近江八幡市子ども読書活動推進計画の5年目標の1年目として、読書活動の推進や市民研修を通じた啓発活動を行ってきた。本日の委員会では、今年度の取組の振り返りを行い、委員からの意見をもとに来年度の活動をより良いものにするための議論を進めることが確認された。 ・お願い 委員に対して、引き続き子どもたちの読書活動支援をお願いした。
委員長	委員長挨拶 ・ブックトークのエピソード 最近行った中学校でのブックトークで、エジソンの発明とそのフィラメントに使われた京都の竹について紹介。その後、学校からFAXで、生徒たちがテレビ番組でこの内容を知って喜んだという報告があった。 ・偶然の重なり 他にも、過去のブックトークで紹介した本がテレビやクイズ番組で取り上げられた事例を紹介。特に、茂木健一郎氏が長年読み続けている「赤毛のアン」を紹介し、この本こそ男の子にもお勧めであると述べている。 ・読書の重要性 読書は文学作品に限らず、さまざまなジャンルの本を読むことが大切だと強調。子どもたちが読書に対して興味や関心を深めるためには、大人たちが様々な本を手渡し続けることが必要であり、特に朝読書においても幅広いジャンルの本を取り入れるべきだと提案。 ・子どもたちへのメッセージ 子どもたちには、文学作品だけでなく、いろいろなジャンルの本を読むように促す必要があると結びつけた。
学校教育課	2 第3次子ども読書活動推進計画進捗について（各課から報告） 【学校教育課】 指標① 学校司書の配置 50%（市内公立小中学校16校に対し8人で対応） 担当校が1人2校になったため、図書館の整備はもちろんのこと、授業の活用も非常に増えて、子どもたちの読書率を向上に繋がっている。 指標② 1か月に1冊以上本を読んだ子どもの割合 小学校 98.1% 中学校 97.2% 小学校は以前から数値が高かった。中学校の割合の増加は、各校で朝読書を行っていることと、アンケートの際、朝読書の本も含むことを確実に伝えたことが要因と考える。これらの数値から不読率は下がっている。 指標⑤ 学校図書館での1人当たり年間貸出数（4月～12月） 小学校 12.4冊 中学校 2.6冊 昨年度は小学校は11.5冊、中学校は1.7冊で、今年度は双方とも向上しているのは、司書活用の効果だと感じている。

幼児課	指標⑦ 図書館と連携を実施している校園所の数 小学校 100% 中学校 100% 学校司書による個別貸出は随時、団体貸出は県立図書館にも依頼した。また、12月に学習成果物（桐原小学校3年POP）を近江八幡図書館に展示した。 指標⑧ 読書活動に関わる研修会の実施や参加 小学校 100% 中学校 100% 8月21日の近江八幡市子ども読書活動推進研修会として村中李衣さんをお迎えし、午前中に学校司書・読書ボランティア向けの研修を実施した。8月26日滋賀県学校図書館実務講習会には市内図書館担当教員が全員参加した。 指標⑩ 読書啓発活動の実施 1回以上の取組ができた。具体的な活動は、学校図書館 活用のススの発行、桐原小学校・八幡東中学校による読書活動推進事業、POPコンクール開催である。今年度のPOPコンクールは400点以上の応募があり、今後も続けていきたい。 指標⑪ 読書活動充実に向けた取組回数 小学校、中学校それぞれ1つ以上の取組ができた。 各小中学校では委員会を中心として、アンケートを取りながら選書をしている。金田小学校で11月実施「金田図書まつり」、八幡東中学校で7月および11月に開催「ビブリオバトル」を行い、読書活動充実に向けて取り組んだ。 ＜八幡東中学校ビブリオバトルVTR視聴＞ 市内の図書館担当者会では中学2年生の教科書にビブリオバトルが載っており、各中学校でクラス単位や班単位でビブリオバトルをしている。八幡東中学校では話し合い活動の一環としてビブリオバトルを行ったが、結果的に読書習慣の向上につながった。ビブリオバトルのために小説などの長い本を読むため、学校だけでなく家でも読書をするようになった。読書が進んだことは学校評価の図書の項目結果にも表れており、家庭からも評価を受けている。次年度からは各中学校でも取組を続けていこうと計画をしている。 【幼児課】 指標④ 1人当たり年間貸し出し冊数 市内就学前施設 34施設中 29施設が実施(およそ85%) 園によって貸出形態が違うため、はっきりとした数字を出すのが難しい。今回は貸し出しを行っている施設の件数を提示している。冊数については、はっきりとした数値は算出できていない。 指標⑦ 図書館との連携 64%（市内就学前施設 34施設中 22施設が実施） 前回の61%から64%に増えた。具体的な連携は、図書館へ出かける、おはなし会、はちっこブック(ミニ)号などが挙げられる。 指標⑧ 読書活動に関わる研修 実施率 100% 幼児教育センターの出前おはなし会、その他各園所にて必要に応じて実施している。 指標⑩ 読書啓発活動の実施 各園所において絵本貸し出し、絵本に関する情報紙の発行、絵本コーナーを設置するなど、読書啓発活動を実施している。
------------	--

高等学校	指標⑪ 読書活動充実に向けた取り組み回数 1回 生涯学習課と連携し、市民読書月間に啓発文書を周知することにより、読書活動充実を図った。
	引き続き、幼児課としてどのようなことができるか検討して取り組んでいきたい。
	【高等学校】
	指標② 1か月に1冊以上本を読んだ子供の割合 (県立高校は、2024年5月1か月の読書調査の結果)
	八幡商業高校 72.2% 母体の生徒総数(回答者) 673人 八幡高校 49% 母体の生徒総数(回答者) 874人 八幡工業高校 59% 母体の生徒総数(回答者) 527人 ヴォーリズ学園 33.9%
	(1年 146/335名 43.6% 2年 98/320名 30.6% 3年 89/326名 27.3% 合計 333/981名 ※生徒総数 1128名 2024年5月調査)
	結果には学校や学年の読書への取組の仕方や朝読書の有無が影響している。
	指標③ 授業時間以外における 平日1日の読書時間が10分以上の生徒 (県立高校は、2024年5月1か月の読書調査の結果)
	八幡商業高校 1年 27.4% 2年 19.5% 3年 20.8% (全学年で 22.7%) 八幡高校 1年 22% 2年 22% 3年 14%
	指標⑦ 市立図書館との連携を実施しているかどうか、またその回数などの割合 貸し出しの連携 1回 POP展示の連携 1回 (八幡商業高校が2024年度図書委員の推し本POP展示) 県内県立高校の横断検索システムの確立、郵送費の予算確保により、市立図書館からの貸借は減少傾向にある。 八幡商業高校 近江八幡市立図書館の利用カードは所持しているが、今年度貸出利用無し。 八幡高校 近江八幡市立図書館の利用カード所持。 八幡工業高校 2024年度の利用はなし。 ヴォーリズ学園 近江八幡市立図書館の利用カード所持。
指標⑧ 読書活動にかかわる研修の実施や研修への参加 【高教研学校図書館研究部会所属の研修(研究会)】 ・高教研司書部の研修を兼ねた全体研究会 年3回 司書部の各地区別研究会湖東地区 6回 高教研学校図書館研究部会の研究発表大会 1回 学校図書館部研究会の地区別研究会 湖東地区 3回 学校図書館研究部会の講演会 2回 ・各個人で、県立図書館の専門研修、「オンライン研修DX時代の学校図書館支援とヤングアダルトサービスについて」オンライン研修、第2回子ども読書ボランティア研修会、オンデマンド配信など外部研修に参加した教員もいる。	
指標⑪ 読書活動充実に向けた取り組み回数 八幡商業高校 (2024年度 13回) 1年生図書館リエンション、SHRで朝読書、読書の時間(各学期末に全クラス1時間ず	

図書館	つ、司書進行の授業)、2 年全クラスで職業・学部関連本で点検読書、3 年全クラスで時事雑誌でおためし読書、春季と秋季の高校総体時に一斉読書、夏季限定かき氷しおりプレゼント、八商読書祭(図書委員手作りワックスペーパーしおりプレゼント、雑誌付録抽選)、図書館 mini ミュージアム、図書館カフェ【家庭部とコラボ・6 月スイーツ販売】・1 2 月文化祭(レモンジュース屋さんを招き販売、家庭部によるスイーツ販売、文豪作品『檸檬』オマージュ図書委員による檸檬爆弾展示、華道部作品展示)、読書感想画コンクール、お年玉企画(付録バックナンバープレゼント)、ホテリングプロジェクト(本などを全国被害者支援ネットワークに寄付し、犯罪被害にあわれた方々の支援活動に活用) 八幡高校 1 年生図書館オリエンテーション(1 時間目は利用案内、2 時間目は本を使って調べ学習) 文化祭図書委員会企画 春季と秋季の高校総体時に、集団読書を実施している。 物理基礎の授業でおためし読書を実施 八幡工業高校 (2024 年度 9 回) 春と秋に 2 週間の読書週間を設け、全校一斉読書を実施。また、高体連時は残留生徒を対象に読書の時間を実施。おためし読書を実施。行事や季節に関連する資料を展示ケースで利用。文化祭の参加。 指標⑪ 子どもの意見を取り入れた選書回数 八幡商業高校 リクエスト制度…生徒は、ネット上から forms で提出、または図書館で直接リクエストカードを提出で、随時受付している。職員へは、年度始めの職員会議でリクエスト用紙と formsURL を配布し、随時受付している。 2024 年度(1/31 まで現時点) リクエスト件数 78 件 (内ネット申込 10 件) 内 70 件は購入か相互貸借で対応(シリーズものは 1 件でカウント) 八幡高校 リクエスト用紙をカウンターに設置し、随時受け付けている。職員へは、年度始めの職員会議でリクエスト用紙を配布し、随時受け付けている。 八幡工業高校 リクエスト用紙をカウンターに設置。オリエンテーションなどで生徒に声換え、随時受けつけをしている。職員へは 4 月と 10 月にリクエストの用紙の配布。随時受け付けている。(2024 年度 リクエスト件数 40 件) ヴォーリズ学園 リクエスト用紙をカウンターに設置。 【図書館】 指標⑥ 図書館での児童書の 1 人当たり年間貸出冊数 15 冊(19 冊 ※1) 0～18 歳の人口: 14,102 人(R 6 年 3 月 31 日時点) R 6 年度児童書の個人貸出冊数: 218,091 冊(1 月 30 日現在まで) ※1…年間貸出冊数を 12 か月換算した 261,709 冊で計算した冊数は 19 冊となる。 指標⑩ 読書啓発活動の実施 8 回
-----	---

生涯学習課	子ども読書活動推進研修は村中李衣先生の講演会を生涯学習課、学校教育課と共催した。 その他の啓発取組は、安土図書館開館 30 周年事業として市内在住の絵本作家のはやしますみさんの新作絵本の原画展を開催した。それに併せて、はやしますみさん、作家さん、安土中学校の生徒たちとのトークショーを開催し、多くの方にご参加いただき、とても好評だった。さらに、学校教育課と共催し、POP コンクールの本の展示を行った。近江八幡おはなし研究会と共催し、動物絵本作家の藪内正幸さんの絵本原画展、およびご子息による講演会を行った。 指標⑪ 読書活動充実に向けた取り組み回数 3つ 具体的な取組は、夏休みの読書普及として参加型の「やってみない？おさかなつり！」を実施し、水や魚に関する絵本と本を紹介した。また、正月企画として、中身の本がわからないように袋に入れた「としょかん福袋」を作り、本を貸し出した。 【生涯学習課】 指標③ 家で 10 分以上読書を継続している子どもの割合（電子書籍を含む） 令和 6 年度 小学校 60% 中学校 54% 全体 57% 中学校では数値が下がっているが、子どもたちが時間に余裕ができたときに読書をしてみよう思えるよう、読書活動啓発は継続して行っていきたい。 指標⑨ 生涯学習課事業を活用した読書啓発の回数 4 回 6 月と 10 月の子育てサロンで、本を展示しブックリストを配布した。選書は図書館にも協力していただいた。 体験と読書の融合を目的に、11 月の中央公民館講座（親子山登り）では、山登りのしおりの裏面にブックリストを印刷し、配布した。2 月の中央公民館講座（水鳥観察会）では、本の展示とブックリストの配布を配布し、講師による絵本の読み聞かせを実施していただいた。 指標⑩ 読書啓発活動の実施 4 回 4 月の「子ども読書の日」、11 月の市民読書月間に家読啓発の LINE を配信した。7 月の長期休業前と 11 月の市民読書月間には、学校司書協力のもと、読書ポスターを作成し、図書室や各教室に掲示していただいた。 8 月に図書館、学校教育課と共催し、近江八幡市子ども読書推進研修会を開催した。 【子育て政策課 ※放課後児童クラブ 23 施設での実施状況】 指標⑩ 読書啓発活動の実施 <table border="0"> <tr> <td>通信でお話を告知したり、図書館だよりを掲示している施設</td> <td>4 施設</td> </tr> <tr> <td>図書館より借りた本を設置している施設</td> <td>9 施設</td> </tr> <tr> <td>本の貸出を実施している施設</td> <td>6 施設</td> </tr> <tr> <td>その他（読み聞かせ等）の啓発活動を実施している施設</td> <td>8 施設</td> </tr> </table> 子育て政策課から放課後児童クラブに対しての読書啓発活動の実施回数は 0 回なので、今後、放課後児童クラブでの読書啓発が進むよう、生涯学習課から子育て政策課へアプローチしていきたい。 【こども家庭センターの進捗状況】	通信でお話を告知したり、図書館だよりを掲示している施設	4 施設	図書館より借りた本を設置している施設	9 施設	本の貸出を実施している施設	6 施設	その他（読み聞かせ等）の啓発活動を実施している施設	8 施設
通信でお話を告知したり、図書館だよりを掲示している施設	4 施設								
図書館より借りた本を設置している施設	9 施設								
本の貸出を実施している施設	6 施設								
その他（読み聞かせ等）の啓発活動を実施している施設	8 施設								

	指標⑩ 読書啓発活動の実施 各施設とも、保護者対象のお話会の開催、センターだよりでの啓発、本の紹介コーナーの設置等で、1回以上啓発活動を実施している。各施設が啓発活動に力をいれているので、継続していただけるようにこども家庭センターにも呼び掛けていく。
委員	意見・質疑応答 学校教育課への質問 指標⑦「団体貸出は県立図書館にも依頼した」とあるが、内容はどのようなものか。
学校教育課	今年度は図書館の県大会が桐原小学校で開催された。それに係わって、2年生が音楽の授業で虫の声の歌の授業をする際、QRコード付きの本を探していたので、県立図書館に収集を依頼した。県立図書館が様々な本を収集してくれたおかげで、図書だけでなくタブレットで情報収集するなど、様々な資料を活用しながら授業をすることができた。
委員長	学校教育課へ学校司書の配置について質問 学校司書の配置は16個に対して8人で、1人2校ずつだが、来年度の以降の見通しはあるか。学校司書の数が増えるか、現況維持かが知りたい。
学校教育課	現在、1人に対して2校配置しており、大規模の小学校は週3回、中学校は前年度の週1回から今年度は週2回に増えたことにより、かなり取組が充実している。 学校司書を増やしていきたいという思いはあるが、現状でも取組が充実していることと学校司書の考えもあり、来年度は学校の規模だけではなく、活用率も併せて1人2校とは限らない配置を考えている。効果として、常に学校図書館に大人がいるということはとても大きいので、今後100%近づくように予算要求はしていきたいが、来年度については、今年度同様8人50%で動いている。
委員長	第1回推進委員会で、「各校に専任の司書ということも考えてる」と言っていたので、実現の期待を込めての質問である。
委員長	学校教育課への質問 指標②「1ヶ月に1冊以上本を読んだ子どもの割合」について、どの学校でも0冊と回答する子どもがいる。自身の活動では一言伝えてアンケートを取っているが、学校教育課はどうしているのか。
学校教育課	聞き方によって数値に差があったため、今年度は生涯学習課が各校に再調査を依頼してこの結果になった。再調査の際、教員に対して聞き方を提示したため昨年度に比べて数値が大幅に上がった。補足しながらアンケートをすることの重要性を感じた。
委員長	学校教育課への意見 市内すべての中学校が朝読書に取り組んでいるが、誰からも言われていないにもかかわらず、子どもたちの大半がある程度厚みのある本を読むべきだと思い込んでいる。 朝読書で読む本は絵本でもいいと投げかけることで、続けていたら多くの本が読めることに気付くので今後はそのような働きかけをしていってもいいのではないのか。本が嫌いな子どもも自分が読める本があることに気付く、本を読める子どもを育てる目的が果たせるのではないかと思う。

委員長	幼児課への質問 指標⑩「読書啓発活動の実施」について、絵本に関する情報紙の発行と書かれているが、どのようなものか知りたい。
幼児課	各園で絵本の紹介をする情報紙である。一例として、年齢や発達に応じた絵本を、本の見所や子どもの反応などの補足も交えて紹介し、保護者への読書啓発として情報提供している。
委員長	これは園独自の取組か。
幼児課	園独自で実施しているので、各園によって若干内容が違う。
委員	安土幼稚園では毎月お話ボランティアが読み聞かせを行っている。地域協働活動推進がその時に読んだ本や子どもたちの様子をまとめて毎月情報紙として発行し、それに合わせて本の表紙の掲示もしている。本の貸出のときに、子どもたちがもう一度家で読みたいと言って借りて帰ることもある。2クラスずつあるので、毎月12冊ずつ保護者に紹介できている。
委員長	高等学校への質問 指標⑪について「各学期末に各クラス1時間ずつ、司書進行の授業を実施」と書いているが、どのようなものか。
高等学校	八幡商業高校では18クラスに、各学期末に司書が内容を考えた授業を監督教員と一緒に実施している。内容は学年やその時期によって異なる。例えば、著作権違反で中高生の逮捕歴が新聞に載ったこともあるので、著作権のことを教えたり、著作権フリーの青空文庫をタブレットで調べる授業、高校生はポブラディアを使ったことがない生徒が多いので、実際に使ってヨシタケシンスケさんのワークシートを使っている授業、50音順での調べ方がわからない生徒もいるので調べ方を教授、小説以外の本をお試し読書、本のあとがきか見開きのどちらかを短時間で読み、必要な情報を見極める能力を高める点検読書という活動を行った。
委員長	全体への意見 中学校の司書にも高等学校のような取組をがんばってほしい。
事務局	3 今年度の取組の報告 本委員会では、4月、7月、11月に重点的に読書推進の取組を進めた。 4月の子ども読書の日には、市内小中学校に文部科学省のポスターの掲示を依頼し、子どもたちや教職員に周知することと、市民向けのLINE配信で読書活動を啓発した。 夏休み前は夏季休業中に読書の機会が増えるように、学校司書に作製協力を依頼したポスターを各教室や学校図書館に掲示していただいた 11月の市民読書月間には、学校司書作製のポスター掲示で小中学校の子どもたちに向けて読書活動を啓発、ならびに小中学校の保護者向けに啓発LINEを配信した。就学前の子どもたちや保護者に向けては、幼児課協力のもと、啓発ポスターを配信した。 また11月には学校教育課が読書週間に合わせてPOPコンクール、安土図書館の

	30 周年企画が開催されており、それぞれの課で読書活動を推進した。
委員長	質問 LINE 配信はどのくらい人数に配信されているのか。
事務局	様々な設定があるが、登録しているすべての人に送ると 9,000 人程度に配信している。
委員長	配信し、どの程度の効果があるのか。
事務局	効果について具体的にはわからない。 周知の意味も込めて配信している。現在は配信して終わっている状況なので、今後は効果を測れる手立ても考え、啓発の取組がより充実するよう検討していきたい。
委員長	意見・質問 ポスターや LINE 配信で様々な方にご覧いただくことが大切であることは納得しているが、それが市民の皆さんや保護者の方にどれだけインパクトがあるか、受け取った側が本当はどう感じているのかということを考え、ご意見をうかがってもいいのではないかと思います。 そんな中で、POP コンクールが昨年度から続いている。今年度は安土図書館 30 周年記念企画として、林ますみ先生と安土中学校生徒がトークセッションをした。そのような取組があると、市民の皆さんにも届けやすいし理解してもらいやすいのではないかと思います。 先ほど視聴したビブリオバトルが、小中学校に実際見てもらえる機会があったらいいと思う。 図書館で高校の学校司書と話す機会があり、高校の学校司書が八幡東中学校で開催された大会を見に行けなかったのが VTR で視聴したかったが、VTR は残っていなかったようだ。せっかくいい大会を開催されたのに、少し残念だなんて思ったと言われた。先ほどの映像は誰が撮っていたのか。
委員	先ほどの映像は夏の大会のものであり、夏は撮ることができていた。 冬は違うところに注力しすぎて VTR には残っていないが、皆さんの記憶に残る取組になった。ビブリオバトルはまた来年も実施する予定である。
委員長	ここまで作り上げていただいたので、「八幡東中＝ビブリオバトル」ということが根付いてほしい。
委員	子どもたちの力があるうちは実施していきたい。
委員長	先生方の力もある。子どもたちの力はずっとある。
学校教育課	ビブリオバトルは、来年度八幡東中学校を中心に市内の中学校の 2 年生で水平展開していこうと考えている。 市内大会にするか、八幡東中で実施したものを配信するかは決まっていないが、4 中学校全てでビブリオバトルに取り組む予定をしている。
委員	興味を持って VTR を見せていただいた。 他の中学校へも展開するとおっしゃったが、小学生も実際に見たら、自分たちもやってみたいと思うのではないかと思います。 もし中学校の方で実施するのであれば、その地域の小学生を招待し実際に見せて

	もらったら、小学校もすごく盛り上がるのではないかと感じた。
委員長	以前は金田小学校でもビブリオバトルやられたことがあり、見に行ったことがある。小学校でもできることなので、小学校でも実施していけるといい。
学校教育課	実際に桐原小学校をはじめ、いろんな小学校でもミニの形でやり始めている。
委員	桐原小学校では昨年度校内研究で教員の1人が実践した。 去年は3年生の各クラスで行った。 今年は5年生のクラスで校内研究の授業として行われた。聞く側の姿勢が大事だということがわかった。また、人前でスラスラ喋るためには準備することが必要になる。本を読む時間、文章を書く時間、練習する時間、発表する時間とかなりの時間を要する。多くの時間が必要なので、やってみたいなと思いつながらなかなか腰が上がらなかったが、今回は校内研究の図書の研究で取り組むことが決まり、今年度実施できた。ただ、他の教科との兼ね合いもあるので、ビブリオバトルだけに時数が増やせないという現状もある。八幡東中学校では聞く素地を作るために、学級経営や特別活動での実践の研究をされてきた。桐原小学校でもビブリオバトル後に、話し合という基盤やしっかり聞くということも大事にしていかないといけないという感想が教師から出ていたので、両輪が大切だと感じた。
委員長	何年生で取り組んだのか。
委員	3年生と5年生で取り組んだ。
委員長	3年生では少し難しいかもしれない。人前で堂々と発表するのであれば高学年の方がいいかも。
事務局	4 協議事項 ①令和7年4月23日子ども読書の日の取組に提案 市民の方々へ周知を目的としたLINE配信、市内小中学校への文部科学省からのポスター掲示依頼、各小中学校のホームページに「子ども読書の日」掲載依頼、就学前の施設には、ブックスタートで使用しているチラシの配布を考えている。
事務局	②令和7年度子ども読書に係る研修会について 子ども読書活動推進の研修会を毎年夏休みに開催している。学校司書や学校関係者向けのものもあれば、今年度のように有名な先生を招いて市民の方への啓発を目的とした研修会もあった。来年度の講師をどのようにするかご意見をいただきたい。
委員	図書館教育近畿大会と兼ねて、分科会があるのでそちらに参加してもらうのはどうか。市の予算があり、どうしても別でする方がいいならしてもいい。
委員長	予算があるのであれば、別の研修会を開催し、近江八幡市で近畿大会があり、分科会もあるので、自身の興味関心のあるところに参加していただくよう働きかけるということか。
委員	分科会には参加費が必要か。
委員	一般参加費は必要である。

委員長	参加費の問題は桐原小学校での県大会の際、近畿大会の素案のようなものが配布されていたと思う。その中に、県内の参加者には補助が出ると書かれていたと記憶している。 10年以上前の近畿大会の参加費はでは6,500円くらいで、2日間様々な分科会等があり、有名な作家や有名な方がおられた。そのような方々のお話を聞けたり、作家のサイン会があるなど、いろいろなことが組み込まれていたが最近の近畿大会の様子はわからない。何かわかることはあるか。
学校教育課	確認したところ、教職員には滋賀県学校図書館協議会から補助が出る予定となっているが、一般市民の皆さんへの補助があるかは書かれていない。
委員長	結構高額になるのか。
学校教育課	参加費は3,700円である。第一線で活躍されている宮島未奈さんなどが来られる。
委員長	今村翔吾さんは来られるのか。
委員	今村翔吾さんは来ない。
委員長	このような研修会があったらいいなと思う希望はないか。 令和6年度の意見をまとめたものを見てみると、本を中心に据えた授業実践例を学びたい、読み聞かせの実際、子どもたちの今の姿がわかるような声が聞きたい、というご意見がある。そのことから、今までで有名な方に来ていただいていることが多いが、夏休み中に子どもたちに半日程度協力してもらい、ビブリオバトルやブックトークの様子を見てもらい、その後、小中学校の交流に高校も参加し、高校からアドバイスをもらうなど、そのような研修会でもいいのではないかなと思う。 協力した子どもたちにお弁当を出したりすると、子どもたちも喜んで来てくれるのではないかなと思うがどうだろうか。趣旨が違うか、学校教育課に聞きたい。
学校教育課	ビブリオの大会をするのであれば、夏休みに限らず見てもらうということはできる。夏休みに生徒の協力を仰ぐのは、交通手段や安全面を考慮すると難しい。動画で見てもらうことはできるが、生の姿を見てもらうのは難しいと思う。 必ずしも夏休みに研修会をしなければならないということではないと思うので、開催時期の工夫はできるかもしれない。
委員長	先ほど初めてビブリオバトルを見て、「良かった」という意見が出たので、いろいろな校種が集まって一堂に見るという機会がすごく大事だと思っているので、またどこかで検討してほしい。
委員	おそらく、ビブリオバトルなどは子どもたちの普段の読書の中で、割と特別感のあるものだと思う。一方、足固めという部分も必要ではないかなと思う。目立たない子どもでも、一人一人にそれぞれの特徴があり、それを支えることも私達の子どもの読書活動推進の大事な仕事だと思う。3年前にお話ボランティアの講師として尾野三千代さんをお招きした。その話を聞いて、なるほどと思った方がたくさんいたと思うが1回きりだったので、継続してそのような講座で具体的な例を聞かせてもらい、子どもたちへの読み聞かせをどのようにしたらいいのか、どのような本がいいのかという、基本的なことを学ぶ場も必要かなと思う。個人的な意見になるが、一人一人の子どもたちに本を届ける人たちのスキルを上げるということが最近できていないので、そのような研修会があってもいい。 学校で絵本を読み聞かせをしているボランティアの方が図書館で、「次は〇年生だけど、どんな本がいいか教えてほしい」とおっしゃっていて、選書に困っていた

委員長	り、基本書がわからなくて困っていたりする様子がある。その気持ちはよくわかるので、そのような人たちのスキルアップを目的に、お金がかからない形で5回連続講座など、基本的なことを学ぶ場ができるといいと思った。 1回に限らずに連続講座という言葉が心に響いた。世古委員のお話を聞いて、幼稚園や小学校の子どもでも、いろいろな発達段階がある。どういう子どもたちを対象にするかで来ていただく方は限られてくるので、対象を絞った研修の方がいいかもしれないと思った。中学生が読む本を紹介される研修会に幼稚園や小学校低学年の教職員が集まっても難しいと感じるかもしれない。教職員は、何を扱うのかわからないという研修内容よりも対象をしばった方がわかりやすいので、今の世古委員の提案がいいと思った。 何度かに分けて研修をするのであれば、絵本作りを体験研修、文字のない絵本にお話をつける研修、読書新聞を作成する研修などがあってもいいと思うので検討してほしい。
事務局	まず伊丹委員からご提案いただいた近畿大会については、生涯学習課からも積極的に参加の方を促していきたいと思っている。 それに加えて、子どもたちが本に触れる素地、また、その周りの大人の育成という部分についても、読み聞かせなどのアイディアや知識を得られるような研修会を開催したいと思っている。予算が限られているので、連続講座ということが可能か可能でないかについては、こちらで検討していかないといけないと考える。 夏に限らず、一緒に子どもたちの読書について考える研修は、来年度もどこかで開催できればいいと思っているので、いい講師がいたら教えてほしい。
委員長	議事の終了を宣言
研究員	5 教育研究所から今年度の研究報告と今後の展望 教育研究所では、子どもが主体的に読書ができる活動や環境作りに焦点を当てて2年間研究を行った。 昨年の課題から、本を置いておくだけでは読むことにつながらないということがわかり、子どもと本をつなぐ人が必要だということが分かった。 そこで今年度の研究の目標を「『つなぐる読書』をキーワードに、子どもと本をつなぐことで、本に親しみ楽しむ子どもの育成を目指す」に設定し、三つの柱をもとに研究を進めた。 研究の一つ目の柱は「就学前と小学校一年生をつなぐ」取組である。 幼児期に親しんだ活動を取り入れることで、児童は安心して学校生活を送ったり、自己表出したりすることができる。そこで毎週木曜日に学級担任の読み聞かせ、月1回は学校司書による読み聞かせに継続して取り組んだ。 また月1回、季節・興味・学習に合わせて学年文庫を充実させた。さらに週1回学校図書館で本を借りることや、給食後や隙間時間に読書を促すなど、本と親しむ時間を確保した。そして、生活科を中心に体験活動の前後に本を活用した。本を活用することで児童の考えが深まったり広がったりした。 二つ目の柱は、「図書委員会が全校・委員会・図書館をつなげる」取組である。 子どもたちが主体的に読書活動に取り組むために、子どもが「読みたい」「学校図書館に行ってみよう」と、出会いの場を作っていくことが重要だと考えた。そのために図書委員会活動を充実することが大切だと考え、三つのことに取り組んだ。 一つ目は、年間計画と振り返りを行い、全校をつなげるという取組である。昨年の図書委員会や他の学校での取組、図書館の本を参考にして年間計画を立てた。読書活動後の振り返りでは、成果や改善することについて振り返るとともに、次の読

委員長 事務局	書活動につながるように、「どうしてもっと良くなるか」について考えた。 二つ目は校区内の委員会をつなげるために、同じ中学校区の小・中学校で1枚の図書通信を発行した。他の図書委員会の取組を知ること、読書活動をさらに充実させることができた。 三つ目は市立図書館とつながる取組である。 今年度は安土図書館が創立30周年を迎えた。子どもたちは「自分たちにできることはないかな」と考え、30周年の飾りや看板作り、お祝いのメッセージを書く取組を行った。30周年の企画をきっかけに、市立図書館に行く子どもたちの姿が見られた。 三つ目の柱は、「明確な狙いをもとに本と体験そして図書館につながる」取組である。 学習のどの場面でどのように本を活用し、子どもたちにどんな力をつけるのかを具体的に想定するために明確なねらいの提示と、ねらいに合ったブックステーションを充実させた。授業で作成された児童の成果物は、学校図書館や市立図書館へ展示して図書館とつながるようにした。 成果と課題 今年度の成果は二つある。 一つ目は、「主体的・継続的な読書について」である。 A 小学校の児童に「学級文庫を読んでいますか」と問うと、6月は68%だったが、12月は85%の児童が本を読んでいると答えた。本を借りたり読んだりする時間を設定することで、本を読むことが習慣化され、継続的に読む姿につながった。 二つ目は、「本を読む楽しさについて」である。A 小学校では89%、B 小学校では83%の児童が本を読むことは楽しいと実感していた。読み聞かせや体験活動の中で本を活用したことで、本の楽しさを感じ、自分から本を手取る子どもが増えた。 課題は、本の有効性を感じていない子どもたちがまだまだいることである。 そこで、来年度は読書活動を通して身につけた力を振り返る時間や、ビブリオバトルのように読書を通じて感じたり考えたりしたことを表出する機会を設定していくことが大事だと考えている。 今後の取組として、今年度の取組を研究所だよりや図書委員会実践記録集、ブックステーション実践記録集として発信し、読書推進を行う予定である。 身近な大人がいろいろな本を提供する場を作ること、数値が上がったことで証明された。先ほど研修会のことを話していたが、生涯学習課で「図書館に係る人たち」という言葉を、全教職員を対象とするという意識づけがあった方がいいと思う。近江八幡市は読書教育に力を入れているので、図書館主任、図書館司書、司書教諭を限定しない表現の方がもっといろいろな方に研修会に参加していただけて意識が高まるのではないだろうか。中学校にはまだまだ国語科が読書についてやればよいという考えを持っている教職員がいるようである。みんなで推進するという意識がさらに高まるようになってほしいと思う。 閉会宣言
-----------------------	--

担当課 ⇒ 総務課